(千葉県)

た。 当初の目的だった謎の横穴は発見できたものの、その中 に財宝はなく、 る畠山清行氏の指揮のもと、徳川幕府の御用金その他を ころには、 めて、 前年からこの年の夏にかけて、 埋蔵金探しの難しさをいやというほど知らされたの 九七八(昭和五十三)年の九月、 群馬県の永井で汗だくの発掘を続け、ついに、 ぼくの埋蔵金熱も少しさめかけていた。 がっかりして引き揚げてきたばかりだっ 埋蔵金研究の権威であ 秋風が吹き始める ジもあったが、中には「自分も同じように埋蔵金を探し り、手紙が舞い込んだりしていた。単なる激励のメッセー らしばらくは、埋蔵金の「ま」の字も出ないほどだった。 で帰ることはないだろう」という確信があっただけに、 で紹介されると、いろいろな人から電話がかかってきた の前に現れたのが、山城赤心氏である。 四人の仲間の落胆ぶりははなはだしく、東京に戻ってか そんな気持ちのすきまを埋めるかのように、突然ぼく この四年間、ぼくたちの発掘のことが、新聞やテレビ ぼくだけではない。「何かが見つかるはず」「手ぶら

ている。

機会があったら、協力してやりましょう」といっ

接会うことを約束させられた。 そのうちの一人で、東京在住だったし、最初の電話で直 関西方面の古銭の流通業界に詳しい人もいる。山城氏も リーマンもいれば、愛知県に住むソニーのエンジニア、 休日に、渋谷の喫茶店で待ち合わせることにしたのだ 先に到着していた相手は、ぼくの顔をよく知ってい 同好の士からの呼びかけもあった。札幌在住のサラ

肩まで垂らしていて、ひところの全共闘の闘士を思わせ

しては珍しい習慣をもつ人だ。やせ形で背が高く、髪を

一歩か二歩、歩み寄って手を差しのべてきた。日本人に

たとみえ、ガラスの自動ドアが開いたとたんに席を立ち、

歩まちがえばイヤミになるほどの知性も感じさせ

る。

た。

デモにはけっこう参加していたらしい。 团 一九四七(昭和二十二)年の生まれだから、ぼくと同じ。 **「塊の世代で、全共闘世代。 角材は振り回さないまでも、** 山 城氏は、 席に座ると早速自己紹介を始め た。

チックだ。 彼と埋蔵金の出会いは、作り話に思えるほどドラマ

のやり過ぎで右腕の腱にダメージを受けた。それに失恋 ピアニストをめざしていた山城氏は、大学時代に練習

追い打ちをかけて人生に絶望し、放浪の旅に出た。そ

のは、 **遁甲」だった。** 験者と出会い、 財宝の埋蔵に応用されているという古兵法「八門 埋蔵金の話を聞く。とくに興味をもった

とある山中で滝に打たれていたときに、一人の修

子』に代表されるそれまでの兵法や、 これは、中国の三国時代の天才軍師、 占星術、 諸葛孔明が、『孫 風水学、

れた。 観相などの占法を集大成したもので、 天皇の時代に百済を経て伝わったとある。その後、 日本に入ってきたのも古く、『日本書紀』に推古 最強の軍学といわ

風にアレンジされて、楠木正成などが実戦でこれを使っ

たらしい。ただし、八門遁甲を学んだのはごく限られた

る。 資料はまったく残存していない。占いの一種に「奇門遁 彼はそれを教えるために会いに来たわけではない。それ 甲」というのがあるが、これは八門遁甲の変形と思われ だけに口授口伝で伝えることを習わしとしていたから、 以上の話を、前置きとして山城氏から聞いたのだが、

人々で、

しかも、絶対に書物などにして残さず、後継ぎ

は、

と思うが、それは別として、相談事とは、

山城流の八門

相談をもちかけてきたのだ。正直なところ、当時のぼく

彼の期待にせいぜい七割程度しか応えられなかった

くらいの知識をぼくがもちあわせていることを前提に、

遁甲の解読で、 香川県の小豆島まで行っている。だが、彼らはまだ実際 伝説地を調査していた。 力してほしいということだった。 に発掘をやったことがない。 用金探しを目的として、また、村上水軍の財宝を求めて、 いので、ぜひ力を借りたいというわけだ。 喫茶店では詳しい話が聞けないので、 彼が掘りたいのは、千葉県市原市。案外近いところだっ それまで、 ターゲットは成島家の埋蔵金。 彼は何人かの仲間といっしょに、 ある埋蔵金のありかがわかったので、 群馬県の赤城山周辺は徳川の御 掘るノウハウをもっていな 日と場所を改め 数カ所の 協

御用金ゆかりの地名に由来する。すなわち、「心は赤城 生涯をかけて謎解きに挑戦するつもりでいる、 だった。 山にあり」をひっくり返したものだ。 いっしょに聞き、合意がなされれば協力をするつもり ンネームというか何というか、そのへんな名前は、彼が なお、 事情があって、本名を明かすことはできないが、ペ 説明してもらうことにした。こちらも仲間を集めて 山城赤心というのは、もちろん彼の本名ではな 徳川幕府

成島家の埋蔵金のことを耳にするのは、これが初めて

研究家、 知識で、 はなかった。 山 下氏と山城氏の話に共通していたのは、 その解明に情熱を傾けていたからだ。 山下三基夫氏が、やはり自分なりの八門遁甲のペキュトルルキャ その前年に知り合った東京在住の埋蔵金 そこを出発点と 八門遁甲

法には必ず最初に「道あかし」があり、 して謎文の暗示に従って進んでいけば、途中に物証が現 最終地点へ導かれるということ。また、 方角その他

は、 た。 ぼくは畠山氏からも八門遁甲の基礎知識を与えられて 十干十二支、 気学で用いる一白から九紫までの九要素、 一つは、 埋蔵地を示すのは謎文と物証のセットで 五行などで表すという。 易の八要

要注意というわけだ。 は、七、八百年も続く旧家で、戦国時代には、後の名主 さて、市原市郊外の金剛地というところにある成島家山の豊臣秀吉の黄金以外にはないと考えていた。 年たっても位置が変わる可能性の低い「不動のもの」が うな山や大木、大きな岩、人工物では神社・仏閣をはじめ、 あること。また、物証として、自然物では目印になるよ のような存在だったらしく、土気城主だった酒井康治が、 て行われた埋蔵は、赤城山の徳川幕府御用金と、 石碑や石宮などが利用されているらしい。 五九〇(天正十八)年、豊臣秀吉に背いて敗れたとき 。ただ、 畠山氏は、八門遁甲によっ 何十年、何百

るのである。 に軍用金を預かり、 江戸時代の半ばにそれを埋蔵してい

そのことを示す文書が同家から見つかったのは、江戸

当主の成島七郎左衛門が蔵の整理をしていたときに、 根裏にあった空の千両箱の中から出てきたもので、一つ 時代も終わりに近い一八四九 (嘉永二) 年のことだった。

むしはらむ

には、

+

五五

天ノ七宝坂ノ入口宝暦二年三月之ヲ埋ム黄金二千八百枚也

ニシテ是ヲ終ル

申酉亥ノ庫ニ之ヲ蔵ス_

砂中ノ石櫃ノ中ニ在リ

と書かれていた。

「ヒイフクフクライ 小判三」

また、もう一枚小さな書きつけがあり、こちらには、

七郎左衛門は、祖父から屋敷内に財宝が埋まっている とあった。

と聞かされていたので、早速発掘にとりかかった。しか し、文の意味もわからず、ただやみくもに掘っただけで、

喰の板が見つかっただけ。この漆喰板は、いまでも謎文 それから八十年以上、三代にわたる探索の成果といえば、 を解く手がかりだといわれている。 「羊」と「扇」と「蔵の鍵」の絵をかたどった三枚の漆。

て文書を一般公開した。すると、全国から一攫千金を狙 同家では手に負えなくなったため、 昭和の初めになっ

う探索者がわんさと押しかけてきた。屋敷内は掘りつく

城氏は、デスクワークと現地調査をくり返しながら、次 のような結論に到達したのである。 ほとんど忘れられていたこの謎文の解読に挑戦した山

されていたので、彼らは周辺を掘ったのだが、結局、何

も出てこなかった。

は易でいうところの大極、つまりすべての始まりだから スタート地点で、それは成島家にちがいない。「八」は、 まず、頭の「一八」を「一」と「八」に分けると、「一」

続く「むしはらむ」とあわせて「八卦」(易)をたてる

ん)・巽 (そん)・坎 (かん)・艮 (ごん)・坤 (こん) の

ことだろう。易には乾(けん)・兌(だ)・離(り)・震(し

「十二、八十一、九十」とは分けて考えるべきだと思った。 を基本にして占う。「むし」はつまり「六四」で、「はら む」を「祓む」(易占を行う)と解した。 八つの小成卦があり、これを二つ重ねた六十四の大成卦 続く数字についてだが、彼は「五五」と以下の

み、人の営みのすべてを説明するもので、それぞれにさ 「五五」にはないからだ。すると、これは大成六十四卦 というのは、「十二」以下は十の単位数字が入っているが、 のではないだろうか。 のうちの五の五の象「巽為風(そんいふう)」を表すも 易の六十四の象は、森羅万象、すなわち自然界のしく

す。 また、 物や貨幣を表す。これらを結びつけると、「成島家から 山門に向かう道は急な上り坂になっている。これが「天 東南の方角に寺か神社があり、そこに貨幣が埋蔵されて は東南。 まざまな意味が込められている。「巽為風」が表す方角 ノ七宝坂」だろう。あとは、寺のどこかに次の基点を見 いる」と解釈できるわけだ。 事実、そこには本宮寺という日蓮宗の古い寺があった。 もう一枚の漆喰板の羊は「兌」の象に属し、兌は金 鍵は八卦の「艮」の象に属し、艮は寺や神社を表 漆喰板の扇も風と関係があり、同じ象に属する。

つけ、そこから申(さる・西南西)・酉(とり・西)・亥(い・

ればいい。 北西) 山下三基夫氏も、 の方角へそれぞれ「十二、八十一、九十」とたど 財宝探しを文書の暗号解読から始め

たが、 た人物で、 れる部分が少ない。ぼくたちは、最初に財宝の埋蔵地と 山城氏はその上をいっている。こじつけと感じら 出会ったときは珍しい人もいるものだと驚い

実在する文書の分析と謎の解読から入っている。やり方

としては、こちらのほうが正しいのではないかと、

されているというのか、

理論を後付けしてきたが、

彼は

発掘をやりながらなぜそこに隠

目される場所を見つけ、

そのときは思った。

園井俊夫君らだったが、この三人がやる気になった。あ 「おもしろいじゃないですか。掘ってみましょうよ」 ぼくは手応えを感じて、この話にのってもいいと思っ 全日空パイロットの宮本憲一君、同じく全日空の古 同席していたのは、イラストレーターの白井正樹さ

だけ。 とは、 現地でポイントを絞り、地主と発掘の交渉をする

山城氏は、自分の仲間が二人、この計画に参加すると ぼくのほうは、Tさんにも声をかけることにした。

彼は、

本職はタクシーの運転手だが、半年間は仕事をや

さり落城する。 た 家康と同盟を結ぼうと、 臣秀吉と対立し、 ピークで、 らずに各地で埋蔵金探しをやっている。 に隠されたといわれ、 る へ向 成 ので同盟は成立せず、 いは富山城が落城する直前に、 かった。 政は戦国時代末の武将で、 佐々成政の軍用金にアタックしていた。 ここ数年は富山県の立山に近い鍬崎山に通っ 結局、 軍用金は、 孤立無援の状況を打開するため、 その直前に家康と秀吉が和睦してい 金額は百万両。 富 厳冬の北アルプスを越えて浜松 成政が浜松へ向かう途中、 山城は秀吉に攻められてあっ 富山城主だったころに豊 北アルプス山中の洞窟 日本の埋蔵金の中 夏場が活動 徳川 あ

当てた人物がいて、それが新たな伝説を生み、 畠山氏の本によると、 明治の半ばごろ、 軍用金を探 現代のト

でもベストテンに入る有名な伝説である。

にあるため、そこを採り当てた人物はほんの一部しか持 レジャーハンターの中にも興味をもつ人は多い。 黄金が隠されていた洞窟は、人を寄せつけない深山 なぜな

らしいのだ。 ち出すことができず、大部分はまだ人知れず眠っている べ板が数枚、 そして、持ち出された「笹金」の極印を打った金の延 地元で発見されたという話もある。 明治時

代に旅館をやっていた大山町のM家にも、そのうちの一

たものかどうかも怪しかった。 えないこともないという程度のもので、人為的に彫られ 鍬崎山を調査していた。 「大きな岩に刻まれた矢印を発見したんですよ」 得意になって彼が見せてくれた一枚の写真は、そう見

あえなかったので、後半、代理として行ってもらったの

ぼく自身がトンネル内での調査に二週間もつき

Tさんは群馬県永井の発掘に最終段階で参加し

ている。

また、

枚が伝わっているが、二人の男が「世話になったお礼に」

のM家の子孫にあたる人といっしょに、本命と思われる

一置いていったものなのだそうだ。Tさんは当時、そ

果はあった。 えたのだが、実際に、 知機を持っているし、それがきっと役に立つだろうと考 人だけでなく、 「埋蔵金マニアって、意外に多いもんですね」 山城氏は言った。ぼくも同感だった。しかも、 彼は苦労して通販で手に入れたアメリカ製の金属探 畠山氏ほかのメンバーを一喜一憂させるだけの効 探知機はトンネル内で何度か反応 年輩の

味をもつ者がいる。

同世代の若者たちの中にも、

埋蔵金に興

「同好の士の組織をつくってもいいですね」

その提案は山城氏から出されたものだったが、以前か

意見を聞く場、情報を交換する場があったほうがいい。 突き進んでしまっている。大事なのは、自分の調査や分 敗した人たちは、 析の結果を客観的に見直すことだ。そのためには、人の らぼくも同じことを考えていた。これまで、 いこんだら最後、 また、 手助けが必要なことだってあるだろう。そんな 例外なく独りよがりになっている。 誤りに気がつかないまま、我を忘れて 埋蔵金で失

本トレジャーハンティング・クラブってね」

「賛成です。実は前から名称も考えていたんですよ。日

関心のない知人に頼るより、たとえ見ず知らずの

興味のある人のほうが力になるはずだ。

他人でも、

「それそれ、それしかないですよ。ぼくの案とぴったり

ぼくが言うと、山城氏は膝をたたいた。

「畠山先生に顧問になってもらいましょう」 同じだ」 こうして、ついに日本で初めての埋蔵金探しのクラブ

が発足することになった。横文字にしたのは、夢やロマ

ンティング」とか「トレジャーハンター」という言葉は ンに結びつけたかったから。いまでこそ「トレジャーハ

念からいうといかがわしい行為であり、それがまるで自 認知されるようになってきたが、当時は理解してくれな い人のほうが圧倒的に多かった。埋蔵金探しは、社会通

発屋」などといった、蔑んだ呼称がつけられていた。 が大半を占めていて、「山師」とか「金掘り」とか「一 チェンジをはかりたいと考えるようになっていたのだ。 り、自分たちの埋蔵金探しも、それに近い形にイメージ 没船の財宝探しなどが、ふつうの人が気軽に取り組める **(これはチャンスだ。宝探しの世界が変わるかもしれな** レジャーの一つとして普及していることを雑誌などで知 で首が回らなくなって、しかたなく一発大逆転を狙う人 だが、アメリカあたりでは、海岸に打ち上げられる沈

分の宿命であるかのように神がかり的になったり、借金

いぞ)

なったのである。 るプロジェクトが、千葉県の市原市で展開されることに 員数二十四名、北海道から九州まで、全国をカバーする 連絡をとり、九州支部長になってもらうことにした。会 大組織ができあがった。そして、クラブの発足を記念す

ぼくはそんな予感を抱いた。早速、大分のチアキにも

めたと書かれている。ぼくはまず、それがいったいどん 成島家に伝わる文書には、「黄金二千八百枚也」を埋

なものかを知りたかった。

貨幣関係の資料を調べると、江戸時代に「黄金」とい

年三月だが、もとは戦国武将で土気城主だった酒井康治 はないらしい。 の軍用金だから、江戸時代の大判であるはずがない。 埋蔵されたのは、江戸時代中期の一七五二(宝暦二)

判の価値は変動したが、基本的には一枚十両だったから、

ふつう大判のことをさしたと解説されている。大

トータル二万八千両ということか。いや、どうもそうで

条氏を攻めた際に、北条方について敗れたからだ。秀吉

戦功のあった武将に恩賞として与えた大判を、敵方の

いたはずもない。なぜなら、康治は、秀吉が小田原の北

豊臣秀吉がつくった「天正大判」を、康治が持って

全国共通の基準ができていた。なお、「両」はもともと れが室町期に改められたようだ。 が一斤の十六分の一、約四十二グラムとされていた。 中国から伝わった重さの単位で、律令制のもとでは一両 だが、多くは金一両が四匁(十五グラム)から四匁五分 金銀山を開発し、 酒井康治が持っていたとは思えない。 (約十七グラム)で、本格的な流通貨幣ではないものの、 室 |町時代から戦国時代にかけて、各地の国人、 は何をさすのか? 金貨や銀貨をつくった。 甲斐の「甲州一両露金」「甲州碁 となると、この「黄 形はさまざま 武将は

両金貨としては、

るかもしれない。 単純計算で時価二十八億円。いや、それ以上の価値があ 百万円はするようだ。それが二千八百枚あるとしたら、 桐判金」などがある。 はかなりの高値で取り引きされている。 の「吉豆小判金」、播磨の「赤松小判金」、越後の「上杉 れた。 枚 その年の九月末、 これらは現存するものがきわめて少なく、 一両のいわゆる私鋳貨幣だったかもしれない のほかに、 千葉県市原市金剛地。 陸奥の ぼくは山城氏の案内で初めて現地を 。もしかしたら、 「伊達鶴小判」「永字金」、 金が出てきてもよさそう 酒井家の軍用金も 最低でも一枚 古銭市場で

た台地の上に建ち、杉林と竹やぶに囲まれている。県道 **発祥の成島家から見て東南の方角にあった。こんもりし** な地名だ。房総半島の付け根の部分のほぼまん中にあり、 二百メートルほど進むと山門の下に出る。 たんぼや畑の多い、ひっそりとした農村地帯である。 一二七号五井・本納線から、たんぼの間を通る道に入り、 山城氏が目をつけた日蓮宗の本宮寺は、確かに、伝説 山門までの細

出ている「天ノ七宝坂」かもしれない。

境内に入り、その中ほどに立つと、山城氏は言った。

何かに気がつきませんか」

い道は急坂になっているから、なるほど、これが謎文に



天ノ七宝坂と思われる坂道を上り詰めたところに本宮寺の山門がある。

じれったそうにつぶやいた。 が建つ。本堂の左側に庫裏が、そして右側に墓地があ あれが北の角にあるわけです」 秋には赤い実をいっぱいつけますからね。目立ちますよ。 「カヤです。あんな大木はこのあたりでは珍しいですよ。 た。針葉樹にちがいないが、種類まではわからない。 「木ですよ、木」 る。そういった人工物ばかりに目をやっていると、彼は の左脇に、けっこう立派な鐘楼があり、正面に古い本堂 ハッと視線を上げると、まず、一本の大木が目につい ぼくは三百六十度、ぐるりとあたりを見回した。山門

青かったが、黄葉するとこれも見事なものだろう。 金を埋蔵したのが、江戸時代の宝暦二年、西暦でいうと すると、南の角にはイチョウの大木があった。まだ葉は 「調べたんですが、どちらも樹齢は二百年以上です。黄 一七五二年ですから、いまから二百二十六年前。年代的 そういわれて、ぼくは反射的に南側にも目をやった。

北です。次に鬼門の東北と裏鬼門の南西。実をいうと、

め、目印となるような木を二本植えたというわけですか」

「そう、南北の角にね。八門遁甲で最も重要な方角は南

「なるほど、この寺を埋蔵地を示す第二の基点にするた

にもだいたい合うんですよ」

らはもうピンポイントを探る作業ですから、基点も絞り 「ただ、寺全体が第二の基点ではないはずです。ここか とではあるが、さすがによく調べている。

この寺は、酒井康治の土気城の裏鬼門にあたっています」

ぼくはうなった。トレジャーハンターとして当然のこ

込む必要があります」 知っていたので、ぼくは黙って次の言葉を待った。 山城氏は続けた。彼がもう結論を出していることは

「北のカヤはダメでした。申、酉、亥の方角はすべてた

んぼ。たぶん昔からたんぼだったと思うし、小川が流れ

ている。そんなところに埋めるはずないですよね。結局、

「いいじゃないですか、イチョウで。それでやってみま

南のイチョウを第二の基点とすることにしました。

という考え方もあるんですが、これも、点を決めるのは

(西南西)、酉(西)、亥(北北西)の方角へ、それぞれ しょうよ ぼくは全面的に山城氏の推理を支持した。あとは、申

何かははっきりしないが、歩数、尺、間など、 「十二、八十一、九十」と、 たどっていけばいい。 単位が

やってみれば、それらしい場所に行き着くのではないだ

何通りか

埋蔵金探しで賑わった土地だけに、地主が「騒ぎはもう そういう交渉をした経験がない。しかも、ここはかつて 発掘を許可してくれるだろうかということだ。彼はまだ、 ごめんだ」と、許してくれない可能性がある。そこで、 山城氏がいちばん心配していたのは、はたして地主が

ぼくが交渉をアシストすることにした。自慢ではないが、 これまで、それに失敗したことはない。

結果として、三カ所の発掘予定地は、「天ノ七宝坂」

住職に話をもっていくことにした。そこが寺の所有地な ら話は早い。もう四十年以上も前のことなので、はっき の南側にある杉林にかたまったので、ぼくはまず、寺の 味を示し、その土地の所有者に話をしてくれ、すんなり 原の市役所に勤務する公務員でもある住職は、 能性がありますので、 「土気城主酒井氏と、このお寺のつながりについて研究 りとは覚えていないが、 しょうか」 しているんですが、 というふうに切り出したと記憶している。すると、 周囲から何らかの資料が出土する可 発掘調査にご協力願えませんで かなり興

と許可を得ることができたのである。

十月七日の夕刻、山城氏とぼくを含めた八人が、三泊

は、 里町の民宿に泊まることにした。ここから発掘現場まで 館がないので、しかたなく、九十九里浜に面する大網白 こう話した。 四日の予定で現地入りした。 民宿を予約した山城グループのKさんは、笑いながら 車で二十分ほどかかる。 現地といっても、近くに旅

どちらさんですかってきくので、JTCですが、と答え

このところ人を泊めていないからなあって。そのあと、

民宿のオヤジが、あまりいい返事をしないんですよ。こ

「いまはシーズン・オフでしょう。三泊したいといったら、

ると、態度がコロッと変わりましてね。ハイハイ、どう

な まったくない。 旬というのは、天候が安定している時期で、 ぞどうぞって。たぶん

JTBとまちがえたんじゃないか 三カ所を、分担して同時進行で掘ることにした。 をかついだ旅行業者なんて、いるはずがないのだが。 現れるとは、思ってもみなかった。ショベルやツルハシ け さて、 拍子抜けだったのは、見学にやってくる人が一人もい にはいかない。こんなところに組織をつくった効果が なるほど、宿泊施設が旅行会社をないがしろにするわ 翌日から、ぼくたちはあらかじめ決めておい 雨の心配は た

ろう。 大げさに説明してやったりするのが、息抜きにもなって なかったこと。これまでは、天草でも群馬でも、たいて いた。人目につきにくい林の中ということもあったのだ い近所の人がそれとなく様子を見に来ていて、ちょっと わりあい掘りやすい土質で、穴掘りは順調に進んだ。

探知機をかけてみたが、まるで反応がなかった。

トルに達し、地下水がわいてきた。水が出るまでと決め

日目に三メートル、二日目には目安にしていた五メー

ていたから、これで終わりだ。成果はまったくなし。

念のため、穴の周囲と底に、Tさんが持ってきた金属

気洗濯機を埋めてやることにした。これで、少しは世の 始めた。どこからか、平べったい石を見つけてきて、ツ 中の役に立つというものだ。 だったので、林の中に不法廃棄されていたボロボロの電 いだった。そのまま埋めてしまうのがもったいないほど 半分以上埋めたところで、今度は山城氏がワルノリを ぼくが掘った穴は、ほれぼれするほど、見た目がきれ

刻み、ごていねいに十文字を東西南北にきっちり合わせ

ルハシの先で表に十文字の線を、裏に「宝」という字を

て、穴の中に置いたのである。

「将来、ぼくとまったく同じように謎文を解釈して、こ

掘りながら周囲に金属探知機をかけたが反応なし(上)。「酉の庫」は掘りやすく、深さ5mに達し、ここに電気洗濯機を埋めた(下)。



ぜと思うでしょうね。しかも、掘ってる途中で石板なん 探知機ができてるとすると、洗濯機に反応して、やった かが出てくるわけだから、狂喜するんじゃないですか」 その様子を思い浮かべ、ぼくたちは腹をかかえて笑っ

か。

の場所にたどりつく者がいるかもしれないじゃないです

そのころ、五メートルくらいの深さまでわかる金属

た。 目的は果たせなかったものの、山城グループの面々も、

城赤心氏ではなかった。 だからといって、このまま引き下がるほど根性なしの山 初めての本格的な穴掘りを心から楽しんでいた。でも、

通っていたのである。 かっていたが、 その結果、本宮寺山門の手前に、かつて豪農の古い屋 東京へ帰ったあと、ぼくはしばらく、この件から遠ざ 彼は次なる基点を求めて、 何度か市原へ

がわかった。これが、 敷があり、参道の左手に立派な長屋門が建っていたこと たっていたことから、 彼は、 成島家から正確に東南の方角にあ 第二の基点を長屋門跡の中

央に設定した。 尺、八十一尺、九十尺進んだところを、 そして、 前回と同じように、そこから三方向へ十二 発掘ポイントと

定めたのだ。なお、

説明が前後するが、

山城氏は、

黄金

庫 当然だが、まず酉の庫に手をつけた。 分散せず、一カ所を集中して掘ろうということになり、 本君、Kさんを除く六人で、第二次発掘を行った。力を なかった。八門遁甲的解釈から、黄金は酉の庫で、申の の武具が入っているとみていた。 すると、二メートルほど掘り下げたところで、突然一 には酒井家の古文書類、亥の庫には刀剣、鎧・兜など およそひと月後の十一月中旬、 前回のメンバーから宮

二千八百枚が、三カ所に分けて埋められたとは考えてい

横穴があったのだ。ぼくたちは一瞬息をのみ、顔を見合

方の壁に手応えがなくなり、ショベルが吸い込まれた。

月に群馬県新治村永井で経験している。でも、そのとき 同じようなことを、ぼくと白井さんとコゾノイは、八

わせた。

ら驚いた。 は横穴があることがわかっていて、それをめざして掘っ 「これが宝庫か!」 ていたのだが、今度はまったく予想もしていなかったか

でもなく、T字型になっていて、奥行き約三メートル、 高さ約一・五メートル、幅六十~七十センチというの 永井の横穴とそっくりだ。ただ、奥行きはそれほど

その先が右に三・六メートル、左に四メートル続いてい

るだけだった。

属探知機をかけると、何カ所かにかすかな反応はある。 むき出しに置いてあるものは何もなかったので、金

だがそれも、 いつものように土中の鉄分だったようで、

けると反応がなくなっ 掘っても何も出てこな 再度探知機をか

ということですかね」 「誰かに先を越された 山城グループのF君



すぐ反応した。 家を訪ねた。横穴に心当たりがないかきくためだ。 から五百メートルほど離れた場所に移転している地主の てうなずくばかりだ。念のため、山城氏とぼくは、そこ 六十歳をこえたくらいの奥さんは、ぼくたちの報告に

肩を落としてつぶやいた。ほかのメンバーも、

黙っ

穴ですよ」 「ええーっ、イモの穴ですか!」 **「ああ、あれは、** 山城氏は大声を上げ、苦笑した。 戦時中にイモを保存するために掘った

現場へ帰る途中、彼はぼくにこう言った。

偶然ですかね。それとも、 すかね」 出されていたと思っています。それでいいんじゃないで 「しかし、よくもまあ、あの穴にぶち当たったもんだ。 わけだから、事実をバラしたらかわいそうですよね」 八門遁甲を使うんですか」 「そうですね。いまはある程度の達成感を味わっている 茶化したつもりはなかったが、山城氏は白い歯を見せ ぼくは同意した。 イモの貯蔵庫を掘るときも、

かの連中は、宝庫を探り当てたけど、すでに誰かに掘り

「このことは二人だけの秘密にしておきましょうよ。ほ

ながら、 ぼくの尻に蹴りを入れるまねをした。

た。 義理堅い性格らしく、協力を要請したぼくたちのグルー 字でびっしり埋められた三枚のレポート用紙。 茶封筒に入った書類が郵送されてきた。市原の発掘に関 含まれていただろう。 する報告書だ。 プに対して、けじめをつけたいという気持ちが表れてい ただし、 第二次発掘を終えてしばらくたったころ、 もちろん、自分自身の調査活動の総括という意味も 例のイモの穴に関しては、 B4の方眼紙五枚分の図面と、 山城氏から 細かい文 、帳面で

は、 この地点を酉の庫とするなら、当然申と亥の庫にも手を であり、すでに盗掘されているとみる」 「結論として、X氏の偶然説、すなわち、この穴は本命 と述べられていた。つまり、過去の探索者であるX氏 八門遁甲による謎文の解読ではないという根拠は、 たまたま穴を発見して隠されていた財宝を手に入れ

を発掘した痕跡が見受けられないからだ。

つけていなければならないのだが、そこに該当する地点

は九十』と解釈して試掘を行う必要あり」と結んでいた。

「残る申と亥の庫も、『申十二または九十』『亥十二また

最後に、参加したメンバーにかすかな夢を残す意味か、

けだ。 ずか一週間くらいの房総通いだったが、東京近郊にこん 本人にその気がまったくないのを知っているのはぼくだ 連日日帰りで参加した。十月から十一月にかけ、正味わ 第二次発掘には、 ぼくとコゾノイとTさんは東京から

馬であいた心の穴を埋めるには十分だった。 ぽの横穴を掘り当てるという結果に終わったものの、群 なのどかな田園地帯があることを、それまでは知らな (もう二度と金剛地に足を運ぶことはないだろう) かったし、期待感にあふれた興奮の日々は、またもや空っ 横穴の奥で、太い孟宗竹に参加者の名前と日付を書い

符が打たれたわけではなかった。以後二度も三度も通う ことになる。 そのころ、ぼくのところに何度か電話をかけてくる人 「ぼくはそう思った。ところが、ここもそれで終止

たものを持ち、代わりばんこに撮った記念写真を眺めな

言うのだ。どんな種類の探知器かを問いただすと、どう

もダウジングらしい。

力を借りたことがある。

摩訶不思議で、ワクワクさせら

天草の件でイタリア人の神父の

ダウジングといえば、

がいた。自分の知り合いに特殊な探知器を使って鉱物探

しをしている人がいるから、一度試してみてはどうかと

だ。 ダウジングは埋蔵金詐欺でよく使われる小道具だから をつけないと危ないよ」と教えられていた。なぜなら、 その上に探知器をかざして反応の様子を示し、相手 一欺師はまず、金の指輪か何かを座布団の下などに置

れるものだが、畠山清行氏からは、「あの種のものは気

うなことを言うので、ひっかかった人は法外な探査料を

発掘に取りかかる。

詐欺師のほうは、

その時点

ポイントだけでなく、埋蔵物の深さや量までもわかるよ

だから、じゃあ次は現場でという流れになる。

現場では、

の関心をひく。相手というのは、たいてい埋蔵金探索者

ラ逃げるのである。 「もっと深い」と言いだす。そして、すきをみてスタコ 海道での事件は、ぼくが宝探しを始めて間もないころ 畠山氏が一例としてあげた一九七五(昭和五十)年の

うよう求められるのがふつうだ。そして、示した深さま

でドロンできたらしめたものだが、見つかるまで立ち会

で掘って埋蔵金が出てこないと、再度探知器をかざして、

宝の話が伝わっていて、昔から宝探しで賑わっていた

の土地には、江戸時代の末ごろに海賊が隠した財

誌の記事の切り抜きも保管していた。

そ

だったから、鮮明に記憶していたし、当時の新聞や週刊

ると、 が埋まっているとだまされて大金をつぎこみ、ダンプ とも言っていた。 **さ二十三メートルの大穴をあけたのである。畠山氏によ** の探査などに大きな実績をあげた梶川淳造氏が使ってい ている。 いるとのこと。また、その道具は「梶川式」のコピーだいるとのこと。また、その道具は「梶川式」のコピーだ 二千四百台分の土を掘り、標高三百メートルの山中に深 いてあるが、昭和三十年代に埋蔵金の世界で話題になっ 「梶川式測定器」については、畠山氏の本に詳しく書 地元の不動産業者と木材業者が、 同一人物が、 これは、明治時代にアメリカに渡り、 ほかでも似たような事件を起こして 時価百億円の砂金 石油鉱脈

かが、 潟県で石油の鉱脈を、 秀吉の黄金伝説がある兵庫県の多田銀 筒をぶら下げただけの簡単な道具を用いて、 で知られる茨城県結城市、 徳川幕府御用金で有名な群馬県赤城山をはじめ、 有名伝説地での探査を依頼したのだ。 そこで、 長さ三十センチほどの うわさを聞きつけた埋蔵金探索者何人 三重県の賢島で水脈を探り当てた 富山城主佐々成政の軍用金 Щ 結城家の埋 帰 国後も新 太閤

ものだ。

ひもの先に、

小さな円

島家の埋蔵金の探査に駆り出されているのである。

金

隠され

たという黒部渓谷など。

そして実は、

千葉県市原市でも、

そのものズバリ、

成

れて片手にぶら下げ、 たらしい。 ところによると、測定法は次のようなものだった。 まず、 ただ、 円筒の中に探したいと思うものと同じ物質を入 畠山氏が梶川氏本人に直接会って話を聞いた **川式にあぶり出された埋蔵金は一つもなかっ** 市原では、 もういっぽうの手に時計を持って 量はわずかだが砂金鉱が見つかっ

を始

でめる。

にあるものの深さや量が判明するという。

これに興味を

円運動に変化して、その回転の速度と強さから、

そして、物体の真上に来ると、

測定器の動き

地下

歩き回る。

目的のものに近づくと、彼の体から発する磁

振り子のような往復運動

気の作用で円筒が引っぱられ、

メリカで相当の実績を上げたのは事実らしい。だが、 たのを、ぼくは横で聞いていたことがある。 の特異体質によるもので、 いと思うよ」 「梶川式は埋蔵金の世界では役に立たなかったけど、 誰でもまねできるものではな

もっていたぼくの仲間のTさんに、畠山氏が説明してい

を両手に持ち、

ないようだ。

ところが、

のルーツは、

古代エジプトの水脈占いにある。

当時の占

切ったばかりの二またに分かれた柳の小枝

地面にかざして歩き回って、地下水のあ

天草の章でも述べたが、この種の探査道具

ものの本を読むと、必ずしもそうとはいえ

師

たちは、

王も、占い棒を手にして描かれているとか。そして、た人物が描かれているし、古代中国の伝説上の人物、 学者の中には、 元前六千年ごろの岩面画には、占い棒らしいものを持 る場所を探した。また、アフリカのサハラ砂漠に残る紀 いるから、みずみずしい小枝の水分が地下水脈に反応し 小枝が引っぱられる現象が起きるのだと説明する人 占い棒を手にして描かれているとか。そして、 同じ物質は互いに引き合う性質をもって

もいる。

中

世のヨーロッパでは、

錬金術とともに、この不可思

れたようだ。

な占い棒「ダウジング・ロッド」の研究がさかんに行

水脈や鉱脈だけでなく、行方不明になっ

げた金属棒二本のセットとか、ひもの先にぶら下げたプ が行われたことも前に述べた。 ラスチックの容器や水晶玉、電子部品を組み込んだ円筒 現代に伝わるものの形状はさまざまで、 直角に折り曲

た人物など、あらゆる失せ物探しの道具として効力を発

したとも伝えられる。

旧ソ連で、

軍事目的でこの研究

状の本体から、プラスチックや竹でできた筒を金属の鎖 でぶら下げたものなどがある。 ただ、 ぼくにはどうしても理解できない部分が多い。

学的根拠があるが、スチールの針金とか水晶玉が宝探し

同じ物質どうしが引き合うという説明には、

いくらか科

b, また、 査ができるのだろうか。 の道具になると聞かされても納得できるものではない。 そういうぼくも、天草では東村山市水道局方式の針金 地図の上(マップ・ダウジングという)で、なぜ探 **一金製品を入れた器具を現場で操作するならまだし**

を使っているし、イタリア人の神父にマップ・ダウジン

埋蔵金探しの世界では、占いやお告げに頼る人も多い。 きほど、何かにすがりたいという心理がはたらくようだ。 間とはたわいないもので、不確かなことをやっていると グをやってもらって、その結果に心躍らされている。人 これもまた、梶川式同様、あちこちで問題を起こしてい

にいろいろ試してみて、それでうまくいった例が一つも いを嫌っていたのも、先入観や想像からではなく、実際 山氏が、そういった「拝み屋」やダウジングのたぐ

クセで、どうにも好奇心が抑えられないのだ。もし、探 われるその小道具を、ぼくは一度見てみたかった。悪い ないばかりか、いつもトラブルの種になるからである。 でも、埋蔵金詐欺師が持ち歩いているものと同じと思

数日後に渋谷の喫茶店で落ち合うことにした。その年の

査料とか金の話が出たら、その場でお引き取り願えばい

い。そこで、仲介者のB氏にとりあえず会うことを伝え、

十二月に入ったばかりのころだったろうか。 予想に反して、B氏は六十歳前後の、身なりのきちん

源の探査で、メキシコあたりでオパールを探したりして とした物腰も柔らい紳士だった。 ·探知器を使うのはMさんという人です。本業は鉱物資

がどこにいても探し出しちゃうんです。いつだったか、 信半疑だったんですが、髪の毛一本あれば、その持ち主 いるようです。ある人の紹介で知り合い、私も初めは半

武デパートのほうに行って隠れていたんですよ。ところ この渋谷で、私は髪の毛を抜いて渡し、雑踏に紛れて西

が、すぐに追いつかれましてね。驚いたのなんのって」

前も、 ら一つ試してみてもいいかなと心が動いた。 氏に探査をやらせてみたいと考えたのだ。幸い、探査料 海道で問題を起こした人物でないことは確かだった。 にがしかの謝礼をという程度の要望だったから、これな のことはまったく口にせず、もし、宝が見つかったらな のことを知ったのはB氏で、天草の件に関心をもち、M ただ、天草まで二人に来てもらうとなると、旅費はこ ほんとうだろうか。でも、話を聞けば、M氏は例の北 住んでいる場所も全然ちがう。新聞や雑誌でぼく

ちらで負担しなければならないから、ちょっとつらい。

でも近場なら。そうそう、一度は諦めた千葉の市原があ

行きましょう。必ずお役に立てると思いますよ」 **「いいですよ。あなたがおっしゃるところならどこでも** 総のほうです。一日ご足労願うだけで、白黒つくと思う んですが」 「実は、いまやっている現場が近くにあるんですよ。房

るかについても、ひとこともしゃべっていない。ダウジ

ングに自信があるのなら、予備知識ゼロで、純粋に道具

所はもちろんのこと、どんないわれの埋蔵金を狙ってい

査をやってもらうことが決まった。B氏には、詳しい場

すぐに山城氏にも連絡を取り、それから一週間後に探

るではないか。

の効果を示してもらおうと考えたからだ。

午前十一時に外房線の營田駅で待ち合わせをしていた。 当日の朝、 山城グループのF君も同乗する。 ぼくは山城氏の運転する車で千葉へ向かっ B氏とM氏とは、

氏は、紺の地味なスーツにきちんとネクタイを締めては はすでに人気の少ない駅前に立っていた。初めて会うM そこから現場までは、直線距離で約六キロ。 交通渋滞のため約束の時間ぎりぎりだに着くと、二人

の仕事が似合う感じの人だった。中肉中背、ポマードで

いたが、どちらかというと仲元氏と同じタイプの、現場

移動した。そして、地面に地図を広げた。二万五千分の 塗 バッグからいよいよその道具を取り出すと、 は見えない。 は の金属の筒の先端から、 石をのせて方角を正確に合わせる。M氏は、 ざした。 В の地図を四枚つなぎあわせたものだ。その上に方位磁 ぼくたちは先方の言うとおり、人目につかない場所に り固めた黒々とした頭髪、 氏が握りしめる直径二センチ、 と同じ六十歳前後と思われた。 まずはマップ・ダウジングから。 細い金属の鎖でぶら下げられた 黒ぶちの分厚い眼鏡。 長さ十五センチほど けっして悪い人に 地図の上に ショルダー

した。 に引っぱられているようにも見える。山城氏がニヤリと 振幅をしだいに大きくしている。 地図上のある一点

竹筒が、思いのほか早く動き始めた。一定の方向に振

「おもしろいじゃないですか。向かってますよ」 若いF君は、

筒を手に納め、どうだといわんばかりにぼくたちの顔を 眺めまわした。 不思議そうに首をひねっている。M氏は

「いい線いってますよ」 山城氏が言う。でも、まだこのときも、金剛地の場所

を二人には打ち明けていない。

「じゃあ、 出発しましょう。 途中の適当なところで一度

を南下する。そして、三キロほど走ったところで、 停めてください」 脇に手ごろなスペースを見つけ、停車した。 M氏に促されて、ぼくたち五人は車に乗り込み、 道路 市道

始した。 前と同じ作業をくり返す。再び、竹筒は往復運動を開 まちがいなく、それは金剛地の方へ引っぱられ

ている。 た。 緊張感がみなぎり、交わす言葉が少なくなって

車に戻り、先を急ぐ。 M氏は、もう探査機をバッグに

戻そうとはしなかった。

城氏は車を停め、サイドブレーキを引いた。ぼくたちが 「こっちだ、こっちだ」 ど先だ。すると、後部座席にいたM氏が真っ先にとび出 のあとを追った。 し、足早にどんどん歩き出した。ぼくたちはあわててそ いくつかの穴を掘った現場は、そこから三百メートルほ いた。山城氏も無言でハンドルを握りしめている。 〔現場で、いったいどんな反応を見せるのだろうか〕 探査器が激しく振れ、それに引きずられるように、M 金剛地に到着した。火の見櫓が建つバス停の前で、山 助手席のぼくは、胸が高鳴り、口の中の渇きを感じて

櫓の前で、 てみてください」 「現場はもう近いですから、ここからは地図なしでやっ

残るたんぼの間の細い私道に入っていく。その先にある

は前のめりになりながら県道を横断し、

枯れた稲株が

のは本宮寺だ。予想外のことだった。計画では、火の見

好だ。

とよんでいた寺の参道への曲がり角で、ピタッと足を止

に二百メートル以上を進み、ぼくたちが「天ノ七宝坂」

M氏は、ただの一度も立ち止まることなく、まっすぐ

と頼むつもりだった。完全にM氏に機先を制された格

る。 「深さが六メートルほど、物の重さはだいたい四十キロ ると、竹筒は遊園地の飛行塔のような円運動を始めてい めるばかりだった。 めた。そして、脇の草むらへ四歩か五歩入り込んだ。 しばらくして、M氏が口を開いた。 ぼくはあっけにとられて、探知器とM氏の顔を見つ

というところでしょうかね」

(信じないわけにはいかないだろう)

山城氏とぼくの視線が合った。

お互いにそう考えているのがわかった。

深さはともか

く、以前から黄金二千八百枚の重量は、一枚が十五グラ

重さも、こちらの考えとぴったりといってもいいほどで をしていた場所は、ほんの目と鼻の先なんですよ。物の て、ぼくは胸の内にたまっていたものを吐き出した。 何も知らないはずだった。一週間の間に事前調査して、 りも、ぼくたちが掘った四つの穴と、M氏が示す場所と **「驚きましたね。実は、ここ数カ月、ぼくらが発掘調査** つじつま合わせをしたなんて考えられない。そこで初め は数十メートルしか離れていないのだ。 ムと考えて単純計算で四十二キロと踏んでいたし、何よ 彼は、ぼくたちがこれまでやってきたことについて、

M氏もB氏も、ニンマリとしてうなずいた。

「こうなったら、そこを掘るしかないですね」

山城氏も心を決めたようだ。八門遁甲的解釈は後回し

彼はすでに周囲の地形を観察して、以前から頭に入って にしてもいいというのか。ところが、そうではなかった。

「この上も坂になってますよね。いまは竹やぶですが、 いるものと絡め合わせ、一つの推論を導き出していた。

昔は道がついていた可能性があります。ここを登り切る 野神社といえば、成島家が長きにわたって氏子代表を務 と、ちょうど正面に熊野神社の鳥居があるはずです。熊

めるなど、切っても切れない関係で、しかも東南の方向

にあるから、ひょっと にあるから、ひょっと

坂』ってわけか。確かこの坂が『天ノ七宝

かった。そしてすぐに

ぼくもうなるしかな

といえますよね」

ここは坂の入り口



第二の「天ノ七宝坂」の可能性が出てきた坂道

蔵金は存在しないということだ) (今度こそ最後だ。これでだめなら、 やはり成島家の埋

をなで下ろした。

発掘の日程が決まった。なお、

探査料の話は、

この日も

二人の口から出ることはまったくなく、ぼくはほっと胸

ショベルをかついで三たび房総へ向かった。 そんな思いで、暮れもおしせまったころ、 ぼくたちは

①伝説そのものが根も葉もない作り話である。 つが考えられる。 埋蔵金が見つからない場合、その理由としては次の三

まった。 ②埋蔵されたのは事実だが、すでに誰かが掘り出してし

③宝はまだ地下に眠っているが、場所がちがっている。 前回の発掘で、山城氏とぼくは失敗の理由を無理矢理

ちな埋蔵金アリ地獄にはまってしまうが、どうにも不思 を示しているのだ。それを信じていいものかどうか、帰っ ②のケースにあてはめた。だが、ダウジングの結果は③ てきてからも迷いに迷った。ヘタをすると、よくありが

るしかない。時間やカネがかかりすぎるなら考えものだ 議でならず、ケリをつけるにはそのポイントを掘ってみ

たいしたことはない。

が入ったことのない自然層とみるしかない。しかも、 えなし。 掘に立ち会うものと思っていたのに、一度も姿を見せな 下水がわき出してきた。ダウジングも奇跡は起こしてく と茶色っぽい砂の縞模様の地層が現れ、その中から化石 掘るのに二日しかかからなかったのだが、まったく手応 じりのとても掘りやすい土壌で、予定の六メートルまで れなかったのだ。 になる途中の貝が出てきた。これはもう、一度も人の手 その結果はというと、またしても空振りだった。 ところで、M氏とB氏だが、ぼくたちは当然二人が発 五・五メートルを過ぎたところで、白っぽい砂 砂混 、 地

京後、 結果が気になるはずなのだが、どうしたことだろう。 かしいですねえ」とつぶやいただけだった。それ以後、 かった。ダウジングに自信をもっているのなら、発掘の ぼくが電話で報告したとき、M氏はひとこと「お

タクトをとっていないので、消息はわからない。 二人からの連絡はぷっつりと途絶え、こちらからもコン

日放送制作のテレビ番組「平成ふしぎ探検隊」で埋蔵金 それから十四年後の一九九二(平成四)年のこと。

朝

談を受けたときに、ぼくは市原を提案した。謎文の解読

の発掘をやることになり、スタッフから素材と場所の相

まだ一パーセントほどの希望をもっていたからだ。 現すかもしれない) たが、あと五十センチ、いや十センチ掘れば黄金が姿を (あのときは、ぴったり六メートルまでしか掘らなかっ のおもしろさがあることと、ダウジングで掘った場所に めの悪い自分に多少腹が立つ。でも、それなりの理

はあった。あの穴は斜面の下に位置しているから、雨

でも降れば上の方から少しずつ土砂が流れてくるはず。

二百年もたてば、それが数メートルの層を形成したとし

という言葉も気にかかっていた。あんなきれいな砂は、 ても不思議はない。それに、謎文の中の「砂中の石櫃_

ントが設営され、 同 年五月、 本宮寺住職の快諾を得て、 収録がスタートした。 成島家のおばあ 境内に大きなテ

かでは見られなかった。

解きをそのままいただいて、ターゲットは本宮寺周辺と ちゃんの話と謎文の紹介、そして、山城赤心氏による謎 テレビ番組らしく、いろんなキャラクターが登場する。 さまざまな方法でポイント探しを展開した。

女性霊感師、ダウジング・ロッドを操る自称鉱物探査技

術者、 の渡辺広勝氏だ。渡辺氏は期待通り、 の中でぼくがもっとも信頼したのが、 遺跡調査に活躍している地中レーダー技師ら。 参道から石段を上 地中レーダー技師

そ

も下りたので、待機していた地元の土建屋さんに掘って を掘るなんて考えられなかった。今回は幸い住職の許可 がいなく穴があると断言した。 がった山門のすぐ前で、不思議なものを探り当ててくれ もらうことになった。あまり大きな穴は掘れないから、 イントだ。もしできたとしても、以前は山門のすぐ近く 層かに重なり合う半円形の縞模様が現れ、渡辺氏はまち トルまでの地下の様子を映し出すカラーモニターに、何 山芋掘りに使うはさみスコップを使う。空洞の天井まで 山城流の八門遁甲では割り出すことのできなかったポ 空洞である。 **。素人目にはわからないが、深さ三メー**

込んでみた。テレビ番組だから、こんなこともできるの きない。そこで、直径十センチくらいの空間ができたと 直径は五十センチもないから、人が入っていくことはで それがしだいに広がっていく。でも、掘り下ろした穴の 初は十円玉ぐらいの、ブラックホールのような闇が現れ、 ころで、竿の先に取りつけた小型のCCDカメラを突っ は たして、ぴったりのところで空洞が見つかった。最

は一・二メートル。

だ。一同の視線がモニターの画面に集まる。

弱と思われた。動物が冬ごもりする穴のような感じだ

空洞の高さは五、六十センチ、底面の直径は一メート

が、まさかそんなことはあるまい。だが、それを確認する必要もある。タ をったら、どこかに入り にったら、どこかに入り にったら、どこかに入り にったら、どこかに入り にったら、どこかに入り にったら、どこかに入り にったら、があるはずだ。スタッ で回る。



山門の前の地下 1.2 mのところに空洞が見つかった瞬間

どである。ただ、奥の方は天井が落ちたか、ぐっと狭まっ 向かう横穴があったのだ。でも、タヌキのしわざにして は大きすぎる。大人でも腹ばいになれば入っていけるほ ていた。再びCCDカメラの出番だ。 今度は、穴の全容がよくわかった。サイズは上から見

見した。笹と雑草で入り口がふさがれていたが、空洞に

ある。平らにならされているような感じで、どう見ても たときとほぼ同じだったが、奥にひな壇のようなものが

分とみていたから、スペース的にも合う。 体的なイメージでとらえると、だいたい「広辞苑」一冊 人工のものとしか思えない。黄金二千八百枚の総量を具

(あそこに、 例のイモの貯蔵庫よりは、ずっとその可能性が高い。 黄金の入った箱が置かれていたのかもしれ

もしそうなら、なぜ横から掘ったのか。横穴の奥

比べると、労力と危険性の点で雲泥の差がある。やっぱ 行きは四メートル以上。縦穴を一・二メートル掘るのと り盗み掘りだろう。山門の真ん前で縦穴を掘れば、どう

しかない。 したって人目につくから、こっそりやるなら横から掘る それにしても、どんな探査方法をとったのかわからな 横から掘ってピタリとそこへたどり着いた技術に

番組では何者かが盗掘したということにして、それがオ と、なかなか諦めきれず、そして最後の力をふりしぼっ と思うが、その空洞は、金山のように狸掘りで掘り進ん ちょっと考えすぎかもしれない。何らかの根拠はあった は驚かされる。いやいや、そんなことがあるだろうか。 て広げた穴で、宝蔵ではなかったのかもしれない。 結局、 でいった探索者が、「あと十センチ、もうあと十センチ」

仕事がはやい。三十分もたたないうちに、予定の六メー

ぼくの主義ではないが重機を使った。はるかにラクだし

最後に、十四年前に掘った穴をもう一度掘り返した。

チとなった。

をしていたぼくのところに、 が現れる気配はみじんもなかった。 たのだが、以前と同じように砂の層が続くだけで、 るためにぼくたちが使ったものだ。さらに深く掘り下げ から錆びたバケツが出土した。十四年前に土を引き揚げ **収録を終えて帰京した次の日だっただろうか。骨休め** 地中レーダー技師の渡辺氏

ルに達し、

見覚えのある縞模様の地層が現れて、土中

るところが出てきたんだよ。山門を挟んで、こないだ掘っ

「データを改めて分析していたら、もう一カ所、

気にな

た穴の反対側、つまり、境内の中になるわけだけど、深

から電話がかかってきた。

も事情を聞いているから、目の色を変えて待機している。 絡をとっていて、スタッフもその気になっているという。 鳴りを感じていた。渡辺氏はすでに番組の制作会社に連 砂の層だな。謎文の中の『砂中の石櫃』という言葉には、 チ四方ほどの、 ここのほうがピッタリだと思うんだけどねえ」 のとは思えないし、これまでの経験からいうと、たぶん 作業はまた地元の土建屋さん。深さ五十センチだから、 二日後、 話を聞きながら地中の様子を頭に描き、ぼくは胸の高 最終のオプショナル発掘が実施された。住職 周りと異質な地層があるんだ。 自然のも

さ五十センチくらいのところに、上から見ると四十セン

のだが、 あとなのだろうか。 出てきたときのことを考えて、最後まで参加してもらお 業員たちとすっかり仲良くなっていたので、もし何かが 土の色が変わり、砂地が現れた。しかし、結局は人為的 うとの配慮だったようだ。 「だれが掘り出したか、だいたい想像がつくけどね」 に何かが収められていることはなかった。ここも盗掘の につくられたとしか思えない砂の層があっただけで、 渡辺氏の分析どおり、地下五十センチのところで急に 、スタッフは土建屋さんの社長をはじめ、若い作

たかがしれている。ぼくやADたちで掘ってもよかった

渡辺氏がポツリと言った。

(えっ?)

の資産家のことだ。 彼の頭の中にある人物について、 それまで、 現場でたびたび話題にのぼっていた地元 ぼくは笑い話のネタとしか考えてい おおよそ察しはつい

うか。 なかったのだが、渡辺氏は本気でそう思っていたのだろ 国内の古代の遺構や古い城跡だけでなく、 確かめたかったが、その機会を逸してしまった。 エジプトや

ねたこともあったし、

群馬県内の数カ所の調査を、

無償

その後も個人的な付き合いが続いた。

事務所を訪

南米などの遺跡の調査で実績をあげた渡辺広勝氏

ウッチャンこと内村光良氏といっしょに掘ったところ、 気が合ったのは、手法がまったく違ううえに、向こうは 休耕田の地下一メートル強のところで異物をとらえた。 たことがある。このときも、渡辺氏の地中レーダーが 確かめたいという、共通する思いがお互いの行動の根底 ちゃんとした仕事だったが、不確かなことを自分の手で にあったからかもしれない いするのだが、いつも気軽に応じてくれた。なんとなく 数年後、別のテレビ番組でもう一度、市原で発掘をやっ

でやってもらったりもした。こちらは遠慮しいしいお願

出てきたのは巨大な木の根っこだった。

に、 その顔を見たのはテレビ画面の中だった。二〇一五年、 エジプトの王家の谷にあるツタンカーメンの王墓の中 隠し部屋らしいものを探り当てたのだ。ツタンカー

それから長い間、渡辺氏とは交流がなく、久しぶりに

かった。 七十七歳の惜しまれる死だった。もっともっと話をした と騒がれたが、現在はその説は否定されている。 メンの義母にあたるネフェルティティの墓かもしれない したことを人づてに聞いた。ぼくより五歳年上だったが、 その四年後の二〇一九年、渡辺氏が病気のために急逝 聞きたいこともたくさんあったのに、残念でな